

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム 第2期中長期計画（2025～2029年度）

<構成>

1. はじめに
2. 千代田区の高等教育の現状と分析（方向性）等
3. 千代田区キャンパスコンソの高等教育のビジョン・目標等
4. 中長期計画実施のロードマップ
5. 千代田区キャンパスコンソの運営体制等
6. 中長期計画の評価
7. 学術分野マップ
8. 沿革（参考）

1. はじめに

「千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム」（以下、「千代田区キャンパスコンソ」）は、2018年4月1日に大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、法政大学によって設立され、その後2023年11月1日に専修大学がこれに加わった。設立以降、千代田区及び千代田区商工業連合会をはじめとして、それぞれの大学がキャンパスを有する地域の自治体や産業界等とともに、大学間連携や地域の発展を目指して様々な活動を展開してきた。

この新しい中長期計画は、現行の中長期計画の期間終了に伴い、2025年度から2029年度までの5年間を期間として、事業計画とロードマップ、事業推進体制や実施事業に対する評価方法等を示したものである。2029年度までの5年間はこれに準拠して活動し、千代田区キャンパスコンソの更なる発展を図っていく。

2. 千代田区の高等教育の現状の課題と分析（方向性）等

（1）千代田区の高等教育の現状等

a. 大学・短期大学・高等学校の数とその学生・生徒の数

千代田区に本部を置く大学・短期大学の数（2022年5月1日現在）は、大学は14校（通信教育課程のみを設置する大学を除く）、短期大学は4校である。これらはいずれも私立である。これに関して、東京23区全体では大学は101校（国立7、公立1、私立93）、短期大学は26校であり、東京都全体では大学は160校（国立14、公立2、私立144）、短期大学は34校（いずれも私立のみ）である。

同様に学生数については、大学生・大学院生は139,006人、短期大学生は1,188人、合計140,194人である。これに関して、東京23区全体では大学生・大学院生は569,826人、短期大学生は6,960人、合計576,786人であり、東京都全体では大学生・大学院生は753,236人、短期大学生は8,639人、合計761,875人である。

千代田区と東京23区との関係では、学校数では大学13.9%、短期大学15.4%を、学生数では大学24.4%、短期大学17.1%を、千代田区と東京都の関係では、学校数では大学8.8%、短期大学11.8%を、学生数では大学18.5%、短期大学13.8%を、それぞれ千代田区が占めている。

<表1>大学・短期大学の数（2022年5月1日現在）

（単位：校）

	学校数	千代田区が占める割合				大学	千代田区が占める割合				短期大学	千代田区が占める割合			
		国立	公立	私立	千代田区が占める割合		国立	公立	私立	千代田区が占める割合		国立	公立	私立	千代田区が占める割合
千代田区	18	0	0	18	—	14	0	0	14	—	4	0	0	4	—
東京23区	127	7	1	119	14.2%	101	7	1	93	13.9%	26	0	0	26	15.4%
東京都	194	14	2	178	9.3%	160	14	2	144	8.8%	34	0	0	34	11.8%

注1 千代田区に本部を置く大学と短期大学の数。

注2 大学には大学院大学を含む。通信教育課程のみ設置する大学を含まない。

注3：文部科学省「令和4年度学校基本統計（学校基本調査報告書）」等をもとに作成。

<表2>大学・短期大学の学生数（2022年5月1日現在）

（単位：人）

	学生数	千代田区が占める割合				大学	千代田区が占める割合				短期大学	千代田区が占める割合			
		国立	公立	私立	千代田区が占める割合		国立	公立	私立	千代田区が占める割合		国立	公立	私立	千代田区が占める割合
千代田区	140,194	0	0	140,194	—	139,006	0	0	139,006	—	1,188	0	0	1,188	—
東京23区	576,786	48,520	243	528,023	24.3%	569,826	48,520	243	521,063	24.4%	6,960	0	0	6,960	17.1%
東京都	761,875	75,504	9,260	677,111	18.4%	753,236	75,504	9,260	668,472	18.5%	8,639	0	0	8,639	13.8%

注1 千代田区に本部を置く大学と短期大学の学生数。正課生・本科生のみ（聴講生等は含まない）。

注2 大学生には大学院生、大学院大学の学生を含む。また、通信教育課程のみ設置する大学の学生を含まない。

注3：文部科学省「令和4年度学校基本統計（学校基本調査報告書）」等をもとに作成。

高等学校（全日制・定時制・併置、通信制）及び中等教育学校（後期課程）は、千代田区内に20校（公立3、私立17）ある。東京23区全体の320校のうちの6.3%、東京都全体の448校のうち4.5%を千代田区の学校が占めている。また、区内20校の生徒数は合計11,839人である。23区全体の223,268人のうちの5.3%、東京都全体の314,166人のうちの3.8%を千代田区の学校の生徒が占めている。

<表3>高等学校及び中等教育学校（後期課程）の学校数・生徒数（2023年5月1日現在）

（単位：校又は人）

	学校数					生徒数				
	国立	公立	私立	合計	千代田区が占める割合	全日制・定時制・併置校	通信制	中等教育学校（後期課程）	合計	千代田区が占める割合
千代田区	0	3	17	20	—	10,573	823	443	11,839	—
東京23区	8	120	192	320	6.3%	213,722	7,448	2,098	223,268	5.3%
東京都	8	195	245	448	4.5%	299,865	10,861	3,440	314,166	3.8%

注1 全日制・定時制・併置、通信制の各高等学校及び中等教育学校（後期課程）の合計。定時制と通信制を置く場合は1校として算出した。

注2 生徒数は本科及び専科。通信制は特科生を含まない。

注3 文部科学省「令和5年度学校基本統計（学校基本調査報告書）」等をもとに作成した。

区内の大学・短期大学と高等学校及び中等教育学校（後期課程）との関係では、学生数・生徒数の比較からも、千代田区内の大学及び短期大学には、区外の高等学校や中等教育学校（後期課程）の出身者を多数受け入れていることが明らかである。

b. 千代田区の人口

国勢調査では、2020年10月1日現在の人口は、昼間は903,780人、夜間は66,680人であり、昼間人口が夜間人口を大幅に上回っている。また、前回調査（2015年10月）の昼間853,068人、

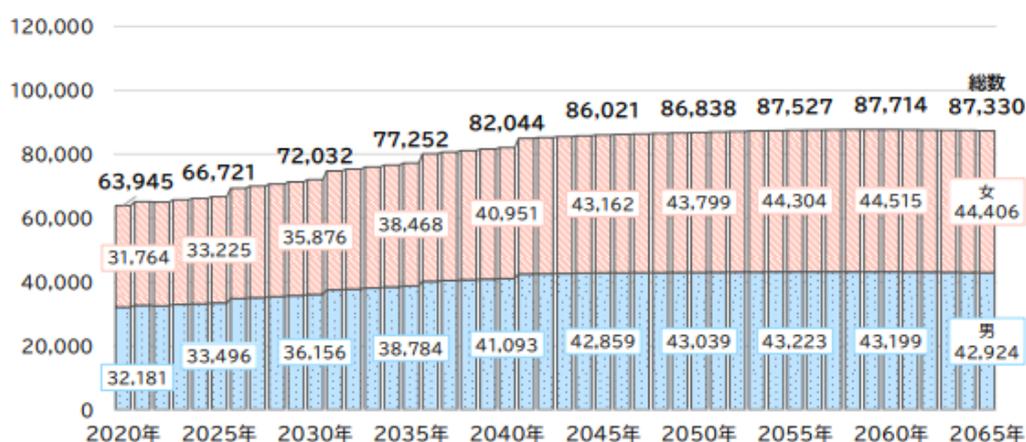
夜間 58,406 人と比べると、特に夜間人口は 8,274 人（114%）増加した。

<表 4> 千代田区の人口推移（国勢調査）

		（単位：人）			
		2005年10月1日	2010年10月1日	2015年10月1日	2020年10月1日
昼間人口	千代田区	853,382	819,247	853,068	903,780
	東京都	14,977,580	15,576,130	15,920,405	16,315,279
夜間人口	千代田区	41,778	47,115	58,406	66,680
	東京都	12,576,601	13,159,388	13,515,271	14,047,594

また、千代田区が作成した「千代田区人口動向と人口推計（令和 5 年度）」では、日本人人口は増加傾向が続き 2040 年に 82,044 人、2060 年に 87,714 人でピークを迎え、以降は減少に転じ、2065 年に 87,330 人になると見込まれることが示されている。

<グラフ 1> 千代田区の人口推計



※出典：千代田区人口動向と人口推計（令和 5 年度）

c. 千代田区の実現に向けて

千代田区は、2023 年 3 月に千代田区第 4 次基本構想を策定した。区の将来像や分野別のあるべき姿を描き、その実現に向けて進むべき方向性を示し、おおむね 20 年先の社会を見据え、持続可能な地域社会を築いていくことを謳っている。

<めざすべき将来像>

伝統と未来が調和し、躍進するまち～彩りあふれる、希望の都心～

<分野別の将来像>

自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち

集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち

やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち

<基本構想の実現に向けて>

変化の激しい時代への柔軟な対応

多様性を尊重し 認めあう社会づくり

参画・協働の推進

このうち、分野別の将来像「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」においては、様々な企業や商店、大学等がある区の地域特性を活かし、地域経済を活性化させ、誰もが豊かさを享受できるまちをめざすことが示されている。

上記のとおり、千代田区には多くの教育機関が立地しているが、各教育機関が持つ特色や知識

を生かし、教育機関と地域がともに発展できるよう、教育機関同士や地域、企業等との連携協力をより一層進めることを謳っている。2024年度までの区と教育機関による主な連携内容・取組みは以下のとおりである。

内容	備考
千代田区内大学と千代田区の連携協力に関する基本協定（2003年度～）	12大学と締結（2025年3月現在）
大規模災害時における協力体制に関する基本協定（2003年度～）	学生ボランティアの整備・派遣、一時避難施設として大学施設の開放等 10大学と締結（2023年11月現在）
千代田区ホームページ内特集ページ「千代田区内大学と千代田区の連携協力」開設（2003年度～）	大学と区の情報発信、交流の場として
「千代田学」提案制度（2004年度～）	千代田区に関する調査・研究を行う大学と連携し、経費の一部を区が負担
授業・放課後活動の学生ボランティア（2004年度～）	教職課程等の学生ボランティアによる学習や課外活動の援助
千代田区専修学校各種学校協会と千代田区との連携協力に関する基本協定（2007年度～）	
大学公開講座	大学公開講座を、区と大学の共催・後援で開催
大学図書館との相互協力	10大学12図書館を区民が利用可能
その他の学生ボランティア	町会の地域コミュニティ活動、商店街イベント、地域美化活動等

d. 区内の産業界

千代田区はその立地から多くの企業・団体の事業所が集まっており、区内の事業所数（国・地方公共団体を除く）は東京23区では港区に次いで2番目に多い35,990にのぼる（令和3年経済センサス活動調査）。

千代田区の産業振興の観点からは、1999年に策定した「千代田区商工振興計画」を、2006年に策定した「千代田区観光ビジョン」を統合しつつ、2022年に「千代田区産業振興計画」に改めた。この新しい計画を、「ちよだの暮らしを豊かにし、まちのステイタスを高める産業まちづくり」を基本理念に掲げ、2023年度から2027年度までの5年を期間とする、区の商工業や観光等の産業の振興方針や施策等を示す総合的な基本計画として位置づけている。この中で、区の各ブランドを活かした産業の活性化について、商店街の活力の維持・向上の施策の1つとして、商店街等と大学の連携を区が支援することが挙げられている。

e. 各大学における社会・地域連携に対するステートメント

各大学の長期ビジョン・計画、グランドデザイン等に定められている社会や地域との連携の内容、それらと千代田区キャンパスコンソの関係は以下のとおりである。

<大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部>

本学院のミッションと経営指針において、「教育機関としての社会的責任を認識し地域社会との連携に努める」ことを掲げている。地域連携を積極的に推進することを本学の社会的責任の基本方針とし、地域社会へ本学の教育と研究成果を還元し、地域の多様な学習ニーズに応えるとともに、地域社会の教育、学術、文化の発展に貢献する活動の推進を図ることに努めている。また、本学の教育目標の一つである「地域との連携において指導的役割を果たせる人材を育成する」の方針を踏

まえ、学生が様々な地域と関わる中で主体性や自立心を身に付け、その成果を学生の教育に反映できることを目指している。

さらに、千代田区キャンパスコンソ連携事業を通じて、地域産業会等の活性化及び地域社会の発展・人材育成に努める。

< 共立女子大学・共立女子短期大学 >

本学園の第三期中期計画では、地域連携のめざす方向性として『教育・研究成果を社会に還元し、社会の発展・SDGsの達成に寄与するとともに、社会連携・貢献活動の中で、学生・教職員が専門的な知識・技能を活用しながら『共立リーダーシップ』を発揮できるよう、組織的に協働し支援を行うこと』を目標に掲げている。かねてから、本学の位置する千代田区、神田神保町界隈との様々な連携を重ねてきた。これに加え、千代田区キャンパスコンソを通じて、地域、そして地域内の高等教育の発展に寄与するとともに、広く社会連携・社会貢献の営みとして努めることをここに示す。

< 専修大学 >

本学の社会連携・社会貢献活動は、21世紀ビジョン「社会知性の開発」の具現化を目指し、本学の研究力による「知」や、学生が生み出す「知」をはじめ、本学の様々な知的資産を積極的に社会へ還元することにより、地域社会及び国際社会に貢献し、社会の進むべき方向を示していくことを目的としている。これからの大学は、これまで以上に社会、とりわけ地域社会や国際社会に大学の知的資産を提供するとともに、社会と連携した教育・研究を営んでいくことが求められている。本学では「産学官連携」「地域社会連携」「国際社会連携」「社会貢献」の4つの柱を中心に社会連携・社会貢献活動を推進する。

本学は、当該目的に基づき、千代田区キャンパスコンソでの連携事業を通じて、千代田区における社会連携・社会貢献活動の促進に努める。

< 東京家政学院大学 >

本学は、建学の精神である「KVA精神」（知識の啓発、徳性の涵用、技術の錬磨）に基づき、社会に通用する高度な専門教育と教養教育を基盤とし、地域社会と連携した活動を通じて、人々の暮らしや文化の発展並びに生活の向上に寄与することを、教育、研究に続く第3の使命としている。また、地域に密着した活動を通じて現代社会の課題を発見し、課題解決に向けて学生が主体的に学ぶ教育が本学の特色であり個性となっている。

千代田区キャンパスコンソの様々な連携事業では、大学の枠を超え自由に選択できる学びや新しい出会いから豊かな教養を養い、社会的視野や自己の可能性を広げることを目的とし、地域社会との連携、社会貢献に努めている。

< 二松学舎大学 >

本学の第二期中長期計画「N' 2030PLAN」において、「地域との連携強化」を図ることを大きな方針としており、地域に根ざした大学として千代田区や柏市との連携のもと地域振興のための教育を行っていくこと、生涯学習講座等の実施で年齢・国籍を超えて開かれた大学となる道を実践することを目標として掲げている。

さらに、千代田区キャンパスコンソでの連携事業を通じて、大学間連携による高等教育の更なる活性化や地域の教育に寄与し、また、千代田区及び区内産業界等との連携を推進することで、千代田区地域及び産業界等の振興・発展、社会貢献に努める。

< 法政大学 >

法政大学は「大学の目的」の1つに、多様化する地球規模の課題を解決し持続可能な地球社会の

構築に貢献することを掲げている。この目的を実現するために、「社会貢献ビジョン」では、本学における研究成果を生かして学外の諸組織との協力関係を拡大することによって、持続可能な地球社会の構築を推進することを定めているほか、「研究及び社会貢献に関する方針」では、高度な市民教育の提供を目指し、企業・国・自治体・地域社会との教育・研究を通じた連携を強化することとしている。これらの目的・ビジョン・方針のもと、千代田区キャンパスコンソにおける連携を推進していく。

(2) 課題と分析 (方向性)

日本の首都機能が集中し日本経済の中心地でもある千代田区には、官庁街、オフィス街、商業地域、住宅街等、様々な顔がある。また、大学・短期大学のキャンパスが多数存在し、東京 23 区の大学生・短期大学生の約 1/4 が学ぶ文教の街でもある。約 900,000 人の昼間人口には 100,000 人を超えるこれらの学生が含まれることも特徴の 1 つである。その千代田区の「千代田区第 4 次基本構想」では、多くの大学のキャンパスが存在する区の地域特性を活かして地域経済の活性化を目指すことが示されており、「千代田区産業振興計画」では、商店街等と大学の連携の支援を区が支援することが産業の活性化の方策の 1 つとして示されている。

一方、千代田区キャンパスコンソを構成する大学・短期大学のビジョン、基本計画、中長期計画等では、社会や地域との連携を重要施策の 1 つとして位置づけ、個々の大学で、また、千代田区キャンパスコンソの枠組みによる複数の大学で、様々な取組みを展開し推進することが示されている。

近年の社会の状況に目を向ければ、日本の急速な少子高齢化、人工知能の活用等によるデジタル社会の到来とそれによる生活様式の変化、気候変動とそれがもたらす災害の激甚・頻発化と生物多様性の減少等、従来の考え方や行動では対応が難しい変化の中にある。また、高等教育機関に対しては、教育研究の質の向上、学修者本位の教育の実践等を通して、新しい価値を創造する人材や持続可能な活力ある社会の担い手を育成することがますます強く要請されるようになってきている。

千代田区キャンパスコンソの各大学・短期大学と区がそれぞれ設定する諸課題には、共通する内容や深い関係を有する内容が含まれる。千代田区キャンパスコンソ設立以降、これらの解決に各々が有するリソースを共有し連携して取り組んできたが、その必要性は今後ますます増していくことが見込まれる。

2025 年度から 2029 年度までの 5 年間も、これまでと同様に、大学・短期大学は徒歩圏にキャンパスを有する利点を活かしながら、大学・自治体・産業界が連携して、多様な学びの実現や地域課題の解決を図っていく。

3. 千代田区キャンパスコンソの高等教育のビジョン・目標等

(1) ビジョン・目標

千代田区キャンパスコンソは、経済社会の健全な発展の推進力となることを目指し、各大学、千代田区（関係団体等を含む。）及び地域産業界等が、近接する立地等を生かした連携を図ることにより、学生の学びや社会の人材養成に対する要請等、多様なニーズに適切に対応することを目的とする。

千代田区キャンパスコンソは、2025 年度以降も、以下の連携事業を推進することを目標に掲げる。

- I 各大学間の連携に関すること（教育の質の保証・向上、学生の交流及び多様な学びの提供等）。
- II 各大学と千代田区（関係団体等を含む）との連携に関すること（研究成果還元及び千代田区内の地域コミュニティの活性化等）。
- III 各大学と地域産業界等との連携に関すること。
- IV 各大学と地方の大学との連携に関すること。
- V その他千代田区キャンパスコンソが必要と認めた事項。

千代田区キャンパスコンソは、各大学の建学の精神に立脚した人材育成方針とビジョンに基づく高等教育を基本とする。加えて、各大学は共同して目標に掲げた連携事業、即ち単位互換やマルチ・ステージ時代に対応した学び直し、資源の相互活用等に取り組み、学生の多様性を育むよう努める。そして、多様な協力関係を管理する能力、問題の要素を結び付け情報を収集・整理し新たな価値を生み出す能力、専門家としての深い知識とジェネラリストとしての知識の幅広さを併せ持つ能力を身につけさせ、情報高度化社会の進展や経済・産業構造の変革にあっても活躍できる人材を養成することを目指す。

(2) 課題と数値目標

上記2(2)の課題と分析(方向性)の内容を踏まえ、ビジョン・目標ごとの課題と数値目標を別表1のとおり定める。課題と数値目標は、必要に応じて運営委員会において見直すものとする。

4. 中長期計画実施のロードマップ

2025年度から2029年度までの5年間のロードマップを別表2のとおり定める。3年目にあたる2027年度に必要な見直しを行い、ロードマップ期間終了後の新たな計画を2029年度末までに策定する。

5. 千代田区キャンパスコンソの運営体制等

(1) 運営体制

a. 運営委員会

- (a) 千代田区キャンパスコンソの運営に関する重要事項を審議・決定するために、運営委員会を置く。
- (b) 運営委員会は、年2回以上開催し、以下の内容を審議・決定する。
 - イ. 千代田区キャンパスコンソが実施する連携事業に関すること。
 - ロ. 千代田区キャンパスコンソと千代田区(関係団体等を含む)、地域産業界等及び地方の大学との連携に関すること。
 - ハ. 中長期計画の策定及び実施に関すること。
 - ニ. その他千代田区キャンパスコンソの運営に関すること。

b. 分科会

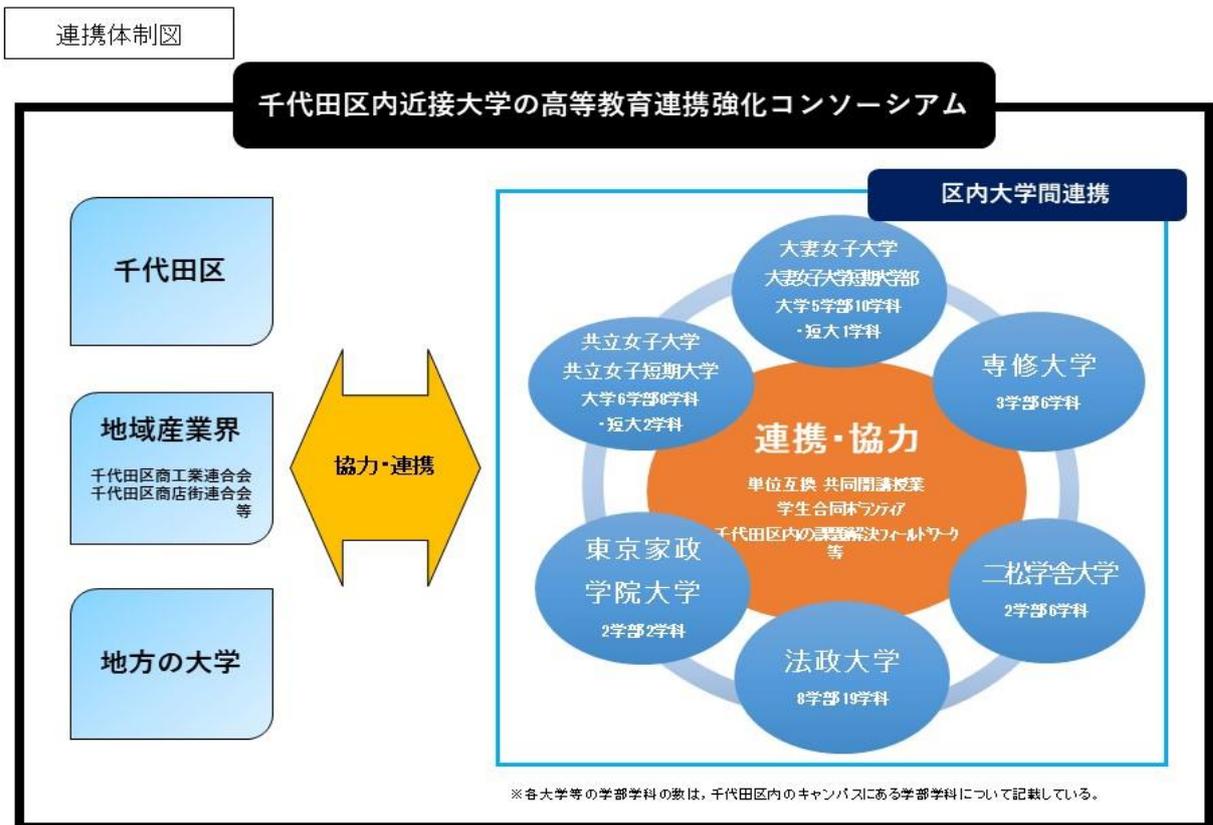
特に必要なテーマの事業実施にあたり、運営委員会のもとに以下のとおり分科会を設置する。

分科会名	職務
単位互換分科会	単位互換の検討・実施に関すること。
公開講座分科会	共同公開講座の企画・実施に関すること。
共同研究分科会	共同研究の検討・実施に関すること。
共同開講授業分科会	共同開講授業の検討・実施に関すること。
FD・SD分科会	共同FD・SDの企画・運営・実施に関すること。
IR分科会	共同IRに関すること。
地域産業界連携推進分科会	地域産業界(商工連等)との連携推進に関すること。

c. 6 大学企画委員会

千代田区キャンパスコンソでは、各大学の副学長（又はそれに準ずる者）から成る6大学企画委員会を設置し、大学間及び地域連携のあり方と取組みの方向性について検討・意見交換を行っている。この6大学企画委員会は年1回以上開催することとし、そこで検討等がされた内容は、運営委員会において具現化等を図る。

(2) 運営・連携体制図



2025年4月1日現在

6. 中長期計画の評価

(1) 評価の方法

- 運営委員会において評価を行う。必要に応じて、運営委員会の下に「中長期計画策定・検証委員会」を設置する。
- 中長期計画の実施状況の検証とその評価は毎年度行う。

(2) 評価結果の公表

事業計画の実施内容とそれに対する評価は公表する。

7. 学術分野マップ

千代田区キャンパスコンソの学術分野マップを別表3のとおり定める。

なお、この学術分野マップは、各大学の学術分野の現状を俯瞰できるようにすることを目的として作成したものである。

8. 沿革（参考）

- 2018 年度 4 月 千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムを設立／包括協定を締結（大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、法政大学）
- 9 月 千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム基本方針を策定
連携・包括協定を締結（5 大学・2 短期大学と千代田区／千代田区商工業連合会）
- 12 月 開設記念シンポジウムを開催
- 2019 年度 5 月 ロゴマークを制定
- 6 月 5 大学企画委員会（現：6 大学企画委員会）を開始
- 7 月 千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム中長期計画を策定
- 9 月 単位互換を開始
- 1 月 区長と学長等との懇談会を開始
- 2020 年度 10 月 共同 IR（数字で見る千代田区キャンパスコンソ）を開始
- 2021 年度 6 月 共同公開講座（現：共同公開リレー講座）を開始
- 7 月 大学間職員人事交流を開始
- 令和 3 年度千代田学共同提案事業採択／共同研究を開始
「自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究
(1) 学生版 KUG 帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発」
- 9 月 共同開講授業を開始
- 10 月 千代田区キャンパスコンソの地域における高等教育のグランドデザインを策定
- 2022 年度 12 月 ウェブサイトの運用を開始
- 2023 年度 11 月 専修大学が参加
- 12 月 シンポジウム「人口減少社会の中の地域と大学連携」を開催
- 2024 年度 3 月 第 2 期中長期計画を策定
- 2025 年度 4 月 連携・包括協定を締結（6 大学・2 短期大学と千代田区商店街連合会）

(別表1) 課題と数値目標等

	事業	数値目標（評価指標）等
目標Ⅰ 各大学間の連携の推進		
課題① 教育の質の保証・向上（授業内容等の改善）	共同FD（ファカルティ・ディベロプメント）	延べ30名以上の参加（年間）
課題② 教育の質の保証・向上（教育研究活動等の適切かつ効果的な運営）	共同SD（スタッフ・ディベロプメント）	延べ50名以上の参加（年間）
課題③ 各大学間の学生の交流の活性化	学生共同ボランティアを含む正課・正課外のプログラム	延べ100名以上の参加（年間）
課題④ 多様な学びの提供	単位互換	単位互換科目の履修者数（前年度比5%増）
目標Ⅱ 各大学と千代田区（関係団体等を含む）との連携の推進		
課題⑤ 千代田区への研究成果の還元	地域課題に関連した研究の成果の発表 地域課題をテーマにした講演・シンポジウム	5回以上の実施（年間） <small>（千代田区キャンパスコンソ及び各大学・短期大学が実施するもの）</small>
課題⑥ 地域コミュニティの活性化	地域向けイベント（地域の繋ぎ、交わりの機会）	地域在住・在勤・在学者 延べ1,000名以上の参加（年間） 又は 5件以上の開催又は参画（年間）
課題⑦ 地域の教育支援	地域向け共同公開講座等	1回以上実施（年間）
目標Ⅲ 各大学と地域産業界等との連携の推進		
課題⑧ 学生による地域産業振興支援	地域産業界との連携教育プログラムの実施	1回以上実施（年間）
目標Ⅳ 各大学と地方の大学との連携の推進		
課題⑨ 地方の大学との学生交流の活性化	相互参加型教育プログラムの実施	1回以上実施（年間）
目標Ⅴ 千代田区キャンパスコンソの運営基盤強化等		
課題⑩ 積極的かつ適切な情報公開	共同IRの実施と公表	3項目以上の分析・公表（毎年）
課題⑪ 地域リスクマネジメント	災害時連携体制の検討又は事業実施	1回以上の検討・事業実施（年間）
課題⑫ 継続的な検証・評価	事業取り組み状況・効果の評価	①コンソ主催関連事業参加者の参加満足度（（毎年度）9割以上を維持） ②単位互換科目の履修者数（前年度比5%増）

(別表2) 第2期中長期計画実施のロードマップ

内容	2025年度				2026年度				2027年度				2028年度				2029年度			
	第1期	第2期	第3期	第4期																
運営委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
分科会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6大学企画委員会			○				○				○				○				○	
年度計画策定				○				○				○				○				○
実績評価・公表	○				○				○				○				○			
目標Ⅰ 各大学間の連携の推進																				
教育の質の保証・向上（授業内容等の改善）		○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○
教育の質の保証・向上（教育研究活動等の適切かつ効果的な運営）		○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○
各大学間の学生の交流の活性化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
多様な学びの提供	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
目標Ⅱ 各大学と千代田区（関係団体等を含む）との連携の推進																				
千代田区への研究成果の還元	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域コミュニティの活性化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域の教育支援	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
目標Ⅲ 各大学と地域産業界等との連携の推進																				
学生による地域産業振興支援		○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○
目標Ⅳ 各大学と地方の大学との連携の推進																				
地方の大学との学生交流の活性化		○	○			○	○			○	○			○	○			○	○	
目標Ⅴ 千代田区キャンパスコンソの運営基盤強化等																				
積極的かつ適切な情報公開	○				○				○				○				○			
地域リスクマネジメント		○				○				○				○				○		
継続的な検証・評価				○				○				○				○				○

※第1期：4～6月，第2期：7～9月，第3期：10～12月，第4期：1～3月

(別表3) 千代田区キャンパスコンソの学術分野マップ

系統・領域名		大妻女子大学	大妻女子大学 短期大学部	共立女子大学	共立女子 短期大学	専修大学	東京家政学院 大学	二松学舎大学	法政大学
人文科学系統	文学・語学	●	●	●	●	●		●	●
	歴史学・地理学					○			●
	哲学・心理学	○			●	○			●
	文化学	●		●		●		●	●
社会科学系統	法学					●		●	●
	政治学					●		●	●
	経済学	●		●		●		●	○
	経営学	●		●		○		●	●
	社会学	●		●		○			○
	社会科学系学際	●		●		○		●	●
理学系統	生物学								○
	情報学	●							○
工学系統	機械工学								○
	電気通信工学								○
	土木建築工学								●
	応用化学								○
	経営工学								○
	工学系学際								●
農学系統								○	
保健系統	看護学			●					
	栄養学	●	●	●			●		
家政系統	家政学	●	●	●	●		●		
	食物学	●	●	●			○		
	被服学	●	●	●					
	住居学	●	●	●			○		
	児童学	●	●	●					
教育系統	教育学	●		●			○		●
	体育学								○
総合学際	国際関係学	●		●		●		●	
	人間科学	○							

●：千代田区内に有する学部・学科の学術分野

○：千代田区外に有する学部・学科の学術分野